住まい活動助成

吉野 家守倶楽部

奈良県吉野町

歴史的町屋の活用を通した地域住民や関係人口がわくわくほっこり交流できる場所づくり

築100年を超す商家を改修して活用する「結 ほんまち屋敷（吉野シェアリングスペース結）」。2020年11月、奈良県のアートイベントの会場となり、訪れた人々で通りがにぎわった

団体設立経緯

少しでも1人でも空き家1軒でも明かりが灯せるように――。

昔、吉野郡の中心地として栄えていた吉野町上市地区では、過疎化の進行に伴い空き家が年々増えてきています。7年前にこの地域の空き家で元料亭だった建物を購入したのが、活動の始まりでした。現在はゲストハウス三奇楼として改修、運営しています。地元の人々やいろいろな地域からここを訪れる交流の場になればと「上市まちづくりの会リターンズ」で企画運営し、この地域で1例目となる空き家活用拠点を実現しました。

ここから点と点を結び、線につなげて活動を広げていこうと、2017年に団体名称を「**吉野 家守倶楽部**」に変更。上市地区のたくさんの空き家を、少しでも利活用できるよう設立しました。

活動概要と活動対象範囲

昨今、老朽化した空き家は取り壊しを余儀なくされているものが多いのですが、歴史的背景を持つこの地域の建造物を保全し利活用することは、景観保持や空き家対策として地域問題の解消の一助となります。そこで建物所有者へは、空き家を放置することのリスクや街並み保全の重要性をお伝えし、移住者や地域の人へ継承されていくような活動を目指しています。

活動対象範囲は**吉野町上市地区**を中心とし、特に旧伊勢街道沿いの空き家を対象とします。

活動に至った理由や背景

東京在住で、吉野町においてはいわゆる関係人口の立場の人物が、明治時代に建てられた歴史的町家を購入したことがきっかけです。この建物を地域住民と来訪者が集う場所として、また将来起業を志す人たちにも活用できるように整備しました。

そして建物の特性を生かしながら、地域の人との交流イベントなど、いろいろな切り口で企画しました。今では空き家に明かりが灯り、街並みも残すことができました。少しずつですが、地域の人の空き家に対する意識を高めることになりました。

活動内容と成果

●厨房スペースの拡張と、玄関エリアの改修

2020年6月のほぼ1カ月をかけて、改修に取り組みました。厨房スペースは手狭でかつ設備機器の交換が必要だったため、解体工事ののち内装を改修し、新しい厨房機器を導入しました。地場産材である吉野杉のカウンターや杉床を張り、この地域ならではの改修としました。広くなった厨房スペースは、宿泊用の厨房や料理教室、飲食での起業チャレンジなどの用途に対応できるようになりました。

地域の方に協力を呼びかけて、空き家に残されていた物品の片づけが進む

片付けで出た品々でフリーマーケットを開催。建物内も開放して、認知を広める機会とした

玄関エリアには、吉野ヒノキでつくったすのこを敷き詰めました。数年前から吉野町で活動している、近畿大学の学生とのDIY企画により製作。学生たちも地場産材に触れ、大工による木工作業の指導で、ものづくりの楽しさを知ってもらうことができたのではないかと思います。

●関係人口と地域住民との交流活動

残存物の多い空き家だったので、まずは片づけや整理・処分が必要でした。関係人口の立場である家主から、地域のおかあさん方に声がけすると、数名の方の協力が得られました。

洗剤や衣類、風呂敷など今でも

9月には女性限定で「古民家お泊まり移住体験」を実施。
宿泊施設としての可能性を探る

アートイベント「はならぁと」では、室内に展示した作品を、表の路地から連子格子越しに眺める設えに

十分使えるものがたくさんあったので、**フリーマーケット**と併せて、建物を内覧する企画を立てました。当日は近所の方がたくさん訪れてくれました。あるおばあさんはこのおうちでの昔のお話をされて、たいそう懐かしがっておられたのが印象的でした。地域のおかあさん方がスタッフとして参加し、ほっこりした関係での活動ができました。

また、地域の人向けに周遊バスで歴史文化に触れるツアーがあり、この建物も見学場所の1つとして、20名ほどの参加者の内覧を受け入れました。格子越しに覗いてみたり、土間の玄関で写真を撮ったりと興味深げな様子でした。この場所をどう活用すればいいと思いますか？というアンケートを実施したところ、古民家カフェやレストランがいいのではという意見が多くありました。

●宿泊施設、ギャラリーとして

和室が6部屋つながり広く使えること、加えて奥には離れの個室3部屋もあるので、簡易宿泊施設として団体での利用や、シェアハウスなど個人での利用もできるのではないかと考えました。

試しに移住体験を企画したところ、吉野に訪れる近畿大学の学生グループや女性数名から希望がありました。事後のアンケートではそれぞれに好印象で、今後、この空き家を使った事業を運営していくにあたり、意義のあるテストケースとなりました。

黒光りした梁や建具の空間は、ギャラリーとしても利用できるのではないかと考えました。そこで、奈良県のエリアマネジメント推進事業として10年目を迎えた**アートイベント「奈良・町家の芸術祭 はならぁと」**に参加することにしました。街並みを生かした芸術祭の1つの拠点として、この場所で地域の人にもアートに触れる企画をと考えました。

残念ながら新型コロナウイルスの流行があり、室内に人が集まるような企画は制限されました。その点で、積極的に交流を促すような内容には至りませんでしたが、古民家の室内に展示した作品を、外を歩きながら鑑賞する形にしました。上市の街並み路地から、連子格子越しに眺めるのもまたいい展示となり、たくさんの方が訪れ、街並みを体感してくれました。日頃閑散としたエリアで、散歩がてらに格子を楽しげに覗き込む姿が見られました。

●歴史や文化に触れる催し

吉野という地域は、多くの歴史が受け継がれるところです。この地を題材とした物語もたくさん存在しています。その中から、谷崎潤一郎作『吉野葛』と渡辺淳一作『うたかた』の一部を語りにし、10月のお月見の夜に「**十六夜に吉野の物語を聴く会**」として企画しました。

完全予約制の20名限定としてコロナ感染対策を施し、ソーシャルディスタンスを取りながら実施しました。題材に出てくる吉野の映像と共に、阿部綾子さんが奏でるトルコの伝統楽器ネイの幻想的な音色と、村井郁枝さんの心のこもった読み聞かせ。古民家全体が物語の中に引き込まれていく、その時代にタイムスリップしたような感覚を、参加した皆さんで体感することができたと思います。

また、写真展の会場としてもご利用いただきました。地域での魅力発信活動を手がける「吉野スタイル」が主催する「**スマイルバスツアーで行くディープな吉野の旅**」は、2012年から19年までの8年間、50回にわたり吉野地域の魅力を伝えてきました。その記録写真のパネル展示です。6つの和室を周回する形で展示を配置しました。玄関でコロナ対策を施し入場制限をしながらの実施でしたが、地域の方やツアーに参加された方などがお越しくださいました。歴史文化を題材にしたパネルも多く、またそこに訪れたいと話されていました。

10月、「十六夜に吉野の物語を聴く会」を限定20名で開催。部屋を区切る建具を取り除けば、大広間としてイベントなどに活用できる

吉野のような過疎地域には、ギャラリーや美術館などが少ないかと思います。歴史文化や芸術に触れる場として、空き家の活用ができてもいいのではないかと思いました。

●まとめ

まず6月に「シェア」や「チャレンジ」など各種の活動の土台となる場として、空き家の改修ができました。地域の人に知ってもらう、見てもらうという部分では、コロナ禍で人が集まりにくくなったのは非常に残念ではありました。そんな中でも、地域の人とのつながりもたくさん生まれ、この場所をまず知ってもらえることはできたと思います。

空き家活用についても、いろいろな活動を通じて得た情報や感覚は、今後に生かせると思います。移住体験のアンケートや最近の動向を見ても、都会の暮らしから少し距離を置き、環境の良い田舎でも暮らしたい人が増えている感触があります。テレワークや多拠点生活などのキーワードを意識しながら、引き続き事業に取り組んでいきたいと思います。

課題と解決方策

今年度助成金に応募した時点では、コロナ感染という脅威が見えていませんでした。飲食におけるチャレンジショップや、「まちの保健室」の事業、木工体験など、地域の人との交流を深め、関係人口を増やしていこうとする事業ができませんでした。

リスクを考えると仕方なかったと思います。しかし、ただあきらめるのではなく、例えば屋外から連子格子ごしに室内を眺めたり、人数制限や予約制にするなど、コロナ対策について意見を出し合い方法を考えてきました。少し趣向を変えながらも事業が実施できたことは、今後の活動への自信になりました。

空き家の持ち主が抱える問題として、残置物の整理は本当に大変です。フリーマーケット前も、片づけなど地域の人の助けがあったことが非常にありがたく、人のつながりと支え合いの大切さを感じました。

空き家がたくさんあってもそれを活用していくには、改修やイベントなどの取り組みを通じて、実例を伝えていく必要があると感じました。

今後の予定

空き家を壊すのではなく、空き家を残し街並みを残すというのはどういうことなのか、その実例を見せながら地域住民（空き家所有者）へ働きかけることが大切だとわかりました。そのうえで関係人口や移住者へのつながりから交流を深め、1つでも空き家に明かりが灯るような活動をしていきたいと思います。

具体的な企画としては、昨年吉野町に移住されたジャズピアニストと一緒に、各所の空き家を使ったジャズフェスティバルを、秋に開催できればと計画しています。

吉野 家守倶楽部

2017年4月設立／メンバー数：6人／代表者：南 達人（みなみ・たつひと）
●〒639-3111　奈良県吉野郡吉野町上市201
☎0746-39-9207　yui.honmachiyashiki@gmail.com
www.yui-honmachiyashiki.com
www.facebook.com/yui.honmachiyashiki/

空き家を利活用することで、街の防犯や景観の保存につなげます。関係人口から移住者を増やし、少しでも1人でも空き家1軒でも明かりが灯せるように。更に起業者を応援する場になることを目指して活動しています。